

轟木・田子の木地区で清掃活動 地域ぐるみで通学路をきれいに

轟木地区教育振興運動実践協議会わらびの会(臼澤文男会長)では、6月6日に「クリーン作戦」と名付けた通勤・通学路の清掃活動を行いました。参加したのは轟木地区と田子の木地区の約80人。早朝から地域ぐるみで沿道の草刈りやごみ拾いに取り組みました。地区の子どもたちもごみ袋を手に自宅前から旧轟木小学校までの道端に落ちている空き缶やペットボトルなどを拾い集め活動に貢献。清掃後に行われたサツマイモの苗植えの地区行事にも積極的に参加し、ひたいに汗をにじませていました。



山田中で認知症サポーター養成講座 特徴や患者への接し方など学ぶ

6月16日、山田中学校(佐々木秀毅校長・生徒317人)で認知症サポーター養成講座が開かれ、1年生107人が認知症の特徴や患者への接し方を学びました。講師は「間違いを責めることで症状の悪化を招きます」と指摘した上で「優しく話し掛け、手伝いましょう」と適切な言葉掛けの必要性を強調。認知症の人がごみ出しの日を間違えた場合の事例研究が寸劇仕立てで行われると、生徒たちは「今日はごみの日じゃないよ。忘れないように紙に書いてね」などと温かい言葉を掛け、理解を深めていました。

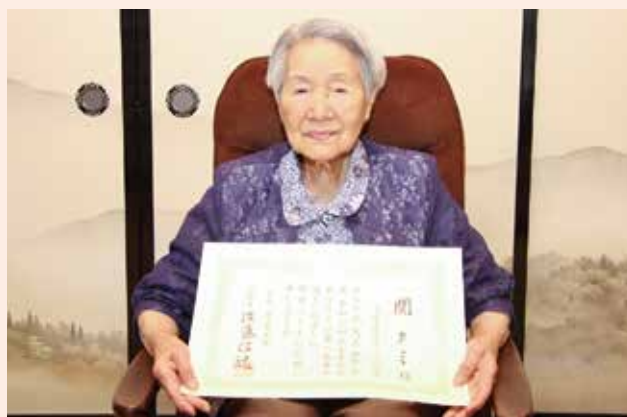


2人が100歳を迎える



豊間根地区の伊藤ともゑさん 祝福の「あめっこ」に笑み

5月20日に伊藤ともゑさん(豊間根)が100歳を迎えられました。伊藤さんは釜石市の出身で、女学校卒業後は、釜石の製鉄所などに勤務。読書好きが高じて、釜石艦砲射撃の歴史書の編さんに携わった経験もあります。現在は、4人の子どもと7人の孫、7人のひ孫に恵まれ、震災後に本町へ移り、町内の介護施設に入所しています。施設ではお祝い会が開かれ、入所者や職員の皆さんが長寿を祝福。大好きな「あめっこ」のツリーが贈られると満面の笑みを浮かべていました。



飯岡地区の関タミさん 「アロエ酒」が長寿の秘訣

「家族に支えられて今があります」と家族への感謝を語る関タミさん(飯岡)。5月26日に100歳を迎えられました。八幡町に7人兄弟の末っ子として生まれ、22歳で境田町に嫁いだ後は夫とともにホタテやカキの養殖業を営みました。現在は、3人の子どもと9人の孫、12人のひ孫に恵まれ、幼いひ孫たちの成長を見守りながら、お小遣いをあげるのを楽しみにしています。長寿の秘訣は、関さん特製の「アロエ酒」。薬草も入れて作るという特製酒を毎日欠かさず飲み、元気に過ごしています。



町のわだい

今月の題字 川村 京楓さん (船越小4年)



田植え作業後のかけっこ競争で笑顔の子どもたち

豊間根小5年生が田植え体験 泥にまみれ一株一株丁寧に

5月27日、豊間根小学校(門田^と徹校長・児童127人)では地元農家が所有する水田で田植え体験を行いました。農業の大切さを知ってもらおうと「総合的な学習の時間」の一環で行われたもので、参加した5年生22人は、農家の指導を受けながらだしになり手植え作業に取り組みました。一株一株丁寧に植えていく途中でぬかるみに足を取られ、泥まみれになる姿もあちらこちらに。参加した阿部太智君は「大変でしたが楽しかったです。秋の収穫が楽しみです」と笑みを浮かべていました。作業後に行われたかけっこ競争では、全員で歓声を上げ、泥の感触を楽しんでいました。



鯨館で巻貝の標本づくり 身近な海の生物への理解深める

鯨と海の科学館が主催する「海の体験教室」が6月13日と20日に開かれ、参加した親子ら9人が巻貝の標本づくりに取り組みました。初日は、しもかわ公園の岩場で標本づくりの題材となる殻長1、2号ほどのタマキビガイやエビスガイなどの採集を行い、その後、貝を煮て中身を抜きとる下処理などに挑戦。中身がちぎれないよう、つまようじを使いぐるぐると貝を回す作業に何度も苦戦する子も見られました。2日目には、貝の名前や採集日などを記載するラベル作りなどを行い標本が完成。参加した皆さんは全工程を通じ、身近な海の生物への理解を深めていました。

